

平成27年度 第2回 横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会 会議録

1 日 時 平成27年11月4日（水） 13時30分～15時30分

2 場 所 横浜みなとみらいホール 6階事務室

3 出席者 石田 一志 委員、田中 操 委員、丸山 宏 委員

4 欠席者 中村 晃也 委員、宮本 とも子 委員

5 傍聴者 なし

6 議事内容

議題	<p>議題1 開会 議題2 指定管理者平成26年度評価について</p>
委員意見等	<p><b>議題1 開会</b></p> <p>(1) 定足数の確認 委員数5名のうち3名の出席により定数を充足し、会議の成立を確認した。</p> <p>(2) 本委員会の公開・非公開について 〈審議結果〉 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜みなとみらいホール指定管理者選定評価委員会運営要綱 第9条に基づき、公開とした。</p> <p><b>議題2 指定管理者平成26年度評価について</b> (以下「・」＝委員、「→」＝指定管理者、「→(市)」＝横浜市) 〈審議〉</p> <p><b>「1 経営」について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベトナムとの交流が密に進み、国際交流基金等十分な支持を得られた。</li> <li>・ベトナムの他、東アジアで世界的な意義を持っている組織と、今後どう面していくかが課題である。</li> <li>・全国規模の音楽団体の演奏会に定期的に会場を提供や、海外に日本の音楽全体の状況を発信できる場にするなど、継続的なアイデアが加わると良い。26年度の勢いを継続するための方法論を考えてほしい。</li> <li>・26年度は、25年度の反省を踏まえ事業を実施し、黒字という結果につながった。ただし、助成金は確実なものではないため、基盤として事業収入を拡大すべき。</li> <li>・企業協賛金の獲得は、事業内容が企業に評価された面があったのではないか。みなとみらい地区の企業も増えており、協賛金の幅を広げる活動をしたほうがよい。</li> <li>・企業へのクローズドコンサートの拡大を考えるとよい。</li> <li>・みなとみらい地区の対岸、ポートサイド地区への働きかけをしてみてはどうか。 →(市) 企業や人の集積という点で、コラボレーションの潜在的な力があるとも考えられる。</li> <li>・外部評価は「B」とする。</li> </ul>

## 「2 事業」について

- ・記録を残す意義や活用方法は課題と考えられるが、事業における活用をどう考えているのか。  
→内部的に事業を企画する際の活用、ホールの歴史の蓄積という点で記録を残す意義がある。発信する場合、契約関係で課題等もあり、現在検討中。一部の公演は、ネット配信または生放送等を前提とした契約も始めている。
- ・オルガン事業で大きな組織等と組んだり、一種の大会等に場を提供するなど、大胆な発想転換を考えても良い時期ではないか。
- ・26年度のオーケストラ公演は、入場者数、顧客満足度の成績が充分であった。専門的な公演で集客が難しかった事業も一部あったが、全体として十分な成績である。横浜と関わりのある指揮者や姉妹都市の楽団等との関係を生かしていた。
- ・新しいジャンルの音楽イベントで新しい観客層の開拓につながった。みなとみらいクラシック・クルーズも認知度が高まってきている。
- ・アウトリーチ事業は重要である一方、整理が必要という意見もあるが、どのように考えているか。  
→これまで実施回数の増に着目していたが、次年度に向けて実施方法や相手先を考え、市とも相談して進めていく。学校へのアウトリーチは、財団として目標を定め取り組んでいるため、来年度も継続予定。
- ・ジュニアバンドやジュニアオーケストラも教育として十分な可能性があると思うが、どのように考えているか。  
→みなとみらい Super Big Band は、青少年の育成事業としても価値が高い。協賛者からの支援もいただいている。同様の取組をしている他都市と情報交換を始めており、行く行くは交流事業としても成長させたい。オーケストラは、底辺拡大を目的に、過去に神奈川フィルと連携し実施したことがある。常設のオーケストラを作るとなると専門家育成という要素が必要になり、目指すべき姿も併せ検討する必要がある。
- ・外部評価は「B」とする。

## 「3 施設運営」について

- ・地域貢献、次代の演奏家、鑑賞家の育成につながる音楽練習室の利用率の上昇が評価できる。  
→ホームページで空き状況を閲覧できるように変更したところ、予約が増え、稼働率アップにつながった。国際会議の参加者からも滞在先での練習需要があるため、パシフィコ横浜にも情報提供している。
- ・6階事務室はどのような利用をしているのか。音楽関係資料を閲覧できる場等に活用できるのでは。  
→建物の構造上、一般利用を想定していない。長期的な事業における事務局機能という利用をし活用している。
- ・外部評価は「B」とする。

## 「4 施設維持管理」から「7 留意事項」について

- ・26年度の収支決算部分に27年度予算額を追記することはできないか。  
→委員会の場では、事業終了後の評価という位置付けのため、予算は審議対象外となっている。
- ・外部評価は「B」とする。

	<p>「基本方針（総括）の評価」について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全国的な音楽組織とつながりを持ち、高校野球の甲子園等のように、学生が「みなとみらいホールにどうしても来たい」と思うような、全国で著名なホール、誇りあるホールになることも、今後の一つの生き方ではないか。学生を介して東アジア連携もあり得るのではないか。</li><li>・26年度は、バランスがよく内容が伝わる報告書であり、実態も伴っていた。</li><li>・みなとみらい地区の来街者数の伸び等、追い風が吹いている状況であり、この機会を生かして伸ばして行ってほしい。</li><li>・事業、業務全般において更なる整理が必要ではないか。 →27年度の事業立案に向け、これまで委員会で指摘いただいたことを受け、全ての定例事業について、趣旨や開催形態、物量等を検討している。</li><li>・外部評価はBとする。</li></ul>
--	--